

《ゼミ紹介》

西阪 仰ゼミ

社会学科 西阪 仰

今年度、大学院に入ってきた1年生たちの「社会学基礎演習」という授業を担当している。そう大学院にも「基礎演習」があるのだ。そこでは、最初に、マルクスとエンゲルスの共著『ドイツ・イデオロギー』の第1章を読み、ヴェーバーの宗教社会学を読み、マンハイムの「イデオロギーとユートピア」を読み、ハーバーマスの「イデオロギーとしての科学と技術」を読み…、そして、いまついにハーヴィ・サックスを読んでいる。と、書いてみたところで、多くの学部生には、何が言いたいのかわかるはずがない。マルクス、ヴェーバーは、名前は聞いたことがあるだろう（ない人は、「社会学史」に出てくれ）。社会学もしくは社会科学の「巨人」を10人挙げろといわれたら、この2人は当選確実だ。それに対して、サックスの名を挙げるのは何人いることか。落選確実だ。確かに、マルクスを読み返すと、ボクは、その斬新な視線にいまでも深い感動を覚えることができる。しかし、社会学・社会科学の歴史のなかで、ボクがまことに「天才」と呼ぶことができるのは、サックスだけだ。

サックスは、1960年代、いわゆるオープンリールと呼ばれる（ソニーが開発した）磁気テープに、ありとあらゆる会話を録音した。そして、それを詳細に書き起こして、緻密な分析を施していく。おお、ここでは「誘い」が行なわれている。それはどうやって行なわれているんだ。おお、そのやり方をこういうふうに記述したら、それが誘いであることが明らかになるだけでなく、他の事例についても同じ分析ができるじゃないか。そういえば、「誘い」の反対は、「拒絶」（「ちょっとあっち行って」）だけど、おお、こう分析したら、な

んと拒絶のやり方も明らかになるじゃないか…ごめん、ごめん。ついつい興奮してしまった。こんなこと言われても、よくわかんないと思う。が、とにかく、それまで誰も考えていなかったことについて、誰も考えたことのなかったやり方で、きわめて明晰に考え抜いた。サックスは、会話がどう組み上げられていくのか、その方法を、きわめて体系的に描いた。そして、40歳で死んでしまった。

それにしてもなんで会話なのか。サックスは、こんなふうに言っている。これまで社会学者は、社会学者が作り上げた概念と戯れているだけで、ちっとも現実に近づこうとしない、と。この台詞、どっかで聞いたことがあるぞ。マルクスが、当時の経済学について、経済学の連中は抽象的な概念をいじくりまわしているだけで、現実の過程を見ることができない、と怒っていた。サックスも怒っていたんだ。マルクスは、人びとが商品を交換するという具体的な過程の分析を、『資本論』の出発点においた。サックスがやったのは、人びとの具体的な言葉の交換を録音することだった。

そういうわけで、ボクのゼミでは、ひたすら、地べたを這いつくばるように、普通の人の普通の会話にじっと耳を傾けるのだ。じっとじっと聴いてみよう。もっとじっと聴いてみよう。そして、ふと頭をあげて、今度は自分の言葉を発してみよう。聞いたことをそのまま言っても、それを言い換えてもだめ。自分が聞いたことを、何を聴いたのかを、徹底的に言葉で表現しよう。のどに引っかかっている言葉を、手でつかみ出そう。サックスがやったように、この事例の記述が他の事例の記述にもなるような記述を、紡ぎだそう。そうす



ると、その普通のことから、まったく普通でないことが、あたかも普通のことのように湧き出てくる。社会の基底の仕組みが、わっと見えてくる。下の証言を聞いてくれ。

ゼミ生へのアンケート

Q1 このゼミを受講しようと思った理由はなんですか？

- ・「会話」に興味があったからということと、ゼミでしかできない内容だと思ったから。
- ・会話分析というのが単純に面白そうで、どんなことをするのか知りたかったということ、先生が会話分析の世界でも有名な方だと聞いたので、そんなゼミを受けてみたいと思ったからです。(本当の最初の理由は、ゼミを受ける気があまりなかったところに、Nさんにゼミの人数が少なそうだからと誘われたから…というのははしょっていいです！笑)。
- ・「会話分析学って一体何なんだろう??」という好奇心が第一です。私は「人」に興味を持って社会学部に入ったので、「会話」という誰でも日々行う行為を新しい視点で考察できたら、という思いで西阪ゼミを志望しました。
- ・日々当たり前におこなっていることを、当たり前ととらえずにあえて分析していくことが面白と感じたからです。

Q2 ゼミを受講してよかったと感じることはなんですか？(どんなことが学べたか、入るまえと入ったあとでは、どんなことが違ったか、などについて書いてください。)

- ・ゼミで会話分析をやっていると、いろいろな人に興味を持ってもらえて話のネタになる。普通の人気が気づかない会話の構造に気づけるようになる。
 - ・普段私たちが何も考えずにしている行動=会話がこんなに秩序だっていて奥が深いものだとは思いませんでした。毎回の授業で新しい発見があるのですごく面白いです。
 - ・人数が少ないので、質問がとてもしやすいです。これは本当に大事なことだと西阪ゼミに入って気づきました。先生も疑問を投げかけるとその都度立ち止まってくださるので、自然と質問がしやすい雰囲気が出ています。
 - ・なるほど、と納得できることが多く、無意識に行っている会話でも分析してみると色々な構造が隠されていることが分かりとても興味深く、授業が楽しいこと。また、普段自然に行っている会話でも発言した後に自分で意識するようになった。
- Q3 ゼミで大変だったことはなんですか？
- ・ゼミの資料がとにかく重い。
 - ・特にない…？強いて言うならたまに出る課題が大変ですが！本当に特にないです。
 - ・理解するために、頭をフル回転させる必要があること。日常的なことを扱うだけに、「そういえば何でだろう?」とよく考えます。自分で当然だと思っていたことに疑問を持つということはとても頭を使うことだと思います。でもその分楽しい作業でもあって、分からない事があればみんなで考えて意見を出し合います。ですから、大変でもありますが、楽しいです。
 - ・読書課題で出される論文の意味が全く分からなかったこと。何度読んでも理解できずに課題があてずっぽうになってしまった。

Q4 ゼミをこれから受講する後輩へ一言!!

- ・ゼミで学んだことはけして無駄にはなりません!!
- ・就活の時などにゼミのことに突っ込まれて答えるのに苦労するという話(らしい)ですが…そんなの関係ねえ!! 毎回新しい発見があって面白いし、やればやるほど深みにはまっていく面白さなのではないかと思います!
- ・どのゼミを受講されるにしても、「自分がやりたいこと」を大切にしてください。まだ分からない人も多いかもしれませんが、日々授業を受ける中で自分が面白いと思えることがひとつはあると思います。それはどうしてなのか、どんなところが面白いのか、それを大切に考えて決めれば、後悔は絶対にはないと思います。
- ・ゼミは高校などでいうクラスのように、深く仲良くなれる人たちとの出会いがあるし、1つのテーマを専攻するというのは貴重な時間になると思うので、ぜひ興味があるゼミを見つけて週に1度の時間を楽しめるように頑張ってください。

Q5 その他

1. いままで授業のなかで最も印象に残ったことなど(勉強の内容であれ、ゼミの運営であれ)もしあれば。
 - ・印象に残っているのは、ゼミ合宿。あれだけの長時間、集中して勉強したのは久しぶりだった。終わったときの達成感と疲労感は、忘れられません。
 - ・人数が少ないのもあるかもしれませんが、先生が良く学生を見ながら進めてくださるので、

ちょっとでも分からないようなことがあると、それを先生が察知して確認してくれます。なのでとても質問しやすいです。逆に、眠そうなのもすぐに見つけてくださるのでありがたいです。

- ・ゼミ合宿が一番印象に残っています。「勉強したな～」って思いました(笑)。楽しかったです。普段は1時間半しか授業時間がないので、連続して勉強したことで理解が深まりました。先生とも他のゼミ生とも仲良くなれました。

2. ゼミで学んだことを今後どう活かしていきたいと思いますか。

- ・まだどういうことに活かせるかは分かりませんが、ゼミで学んだ「視点の発見」は、どこへ行っても役立つと思っています。
- ・ゼミで学んだことを少しでも意識して他人と接すれば人間関係を円満にすることにつながるので、普段生かせればいいなと思います。普段自然におこなっている会話を後で思い返して、どういう心境でその時「修復」を行ったか、など考えてみたいなと思いました。

3. 卒論では何を勉強したいと思いますか。

- ・まだ何も決めていないのですが、他のゼミ生と協力して会話分析したものを卒論にしたいと思います。

4. ゼミに関する要望など、もしあれば。

- ・授業が楽しいので、要望は何もありません!(笑)ときどき囁んで何を言っているのか分からなくなるあたりも面白いです。西阪先生は、とにかく面白い方です。